碑の表

「記憶　反省　そして友好」

※　ハングルと英文が併記されている

裏の碑文

追悼碑建立にあたって

20 世紀の一時期、わが国は朝鮮を植民地として支配した。また．先の大戦のさなか、政府の労務動員計画により、多くの朝鮮人が全国の鉱山や軍需工場に動員され、この群馬の地においても、事故や過労などで尊い命を失った人も少なくなかった。

21 世紀を迎えたいま、私たちは．かつて我が国が朝鮮人に対し、多大の損害と苦痛を与えた歴史の事実を深く記憶にとどめ、心から反省し、二度と過ちを繰り返さない決意を表明する。過去を忘れることなく、未来を見つめ、新しい相互の理解と友好を深めていきたいと考え、ここに労務動員による朝鮮人犠牲者を心から追悼するためにこの碑を建立する。この碑に込められた私たちのおもいを次の世代に引き継ぎ、さらなるアジアの平和と友好の発展を願うものである。

2004 年 4 月 24 日

「記憶　反省　そして友好」の追悼碑を建てる会

碑文中「朝鮮」及び「朝鮮人」という呼称は、動員された当時の呼称をそのまま使用したもので、現在の大韓民国、朝鮮民主主義人民共和国、及び両国の人達に対する呼称である。

※　横にハングルが併記されている